

ぼやあ樹だより

今月も空き情報や小規模多機能の利用例などの広報誌「ぼやあ樹だより」をお送りさせていただきます。また、弊社ホームページでは、各事業所のニュースなども掲載しておりますので、ぜひ一読いただきますと幸いです。

空き情報

小規模多機能型居宅介護ぼやあ樹 空き情報(2026年5月1日現在)

ぼやあ樹の6事業所(新子安・神大寺・平川町・松本町・江ヶ崎町・関内)の空き情報をお知らせ致します。ご利用をご検討の際に、参考にしていただければと思います。

地域	事業所名	泊まり	通い	訪問
神奈川区	ぼやあ樹 新子安	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 神大寺	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 平川町	◎	◎	◎
	ぼやあ樹 松本町	△	◎	◎
鶴見区	ぼやあ樹 江ヶ崎町	◎	◎	◎
中区	ぼやあ樹 関内	◎	◎	◎

- ◎ 空きあり
- △ 曜日等 要相談
- × 満員(空き待ち)

当社ホームページや Facebook も随時更新しています。QRコードよりぜひご覧ください。



ぼやあ樹からのお知らせ



当社独自の**要介護4・5および週4日以上泊まりの方を限定**とした
【お泊り料金割引キャンペーン】

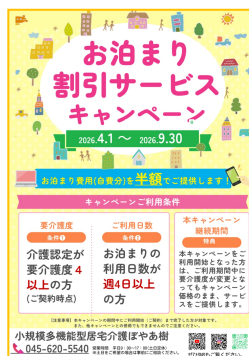
を実施することとなりました！！

2026年4月～9月にご利用開始となった方に限り、
宿泊費を特別割引価格 でご案内いたします。

《ご利用条件》 ※①②いずれも該当

- ① 要介護4または5の方
- ② 週4日以上泊まり利用の方

介護サービスに困っている方や
 当キャンペーンにつきましてご不明な点等が
 ございましたら、遠慮なく相談窓口まで
 お問い合わせください。



同封の資料をぜひご覧ください！

相談窓口☎:045-620-5540

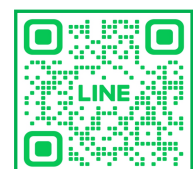


LINE

公式アカウント

＼友だち登録募集中／

LINE アプリの「友だち追加」
 →「QRコード」から
 下記の QR コードを撮影して、
 ご登録をお願いします☆



「希望をカタチに」 — Vol.3 —

代表取締役 石川 洋一



本コラムでは、「希望をカタチに」という理念が、
どのような出会いや想いから生まれてきたのかをお伝えしていきます。

看取りの現場で出会う人生は——
必ずしも「老い」とともに訪れるものばかりでは
ありません。
あるご家族との出会いは、「生きる」ということの
重みを、私に改めて教えてくれました。

その方は、まだ働き盛りの男性でした。
結婚し、子どもも生まれ、これから家族の時間が
広がっていく。
そんな、ごくありふれた幸せの途中にいました。
ある日、仕事での小さなミスが増え始めました。
約束を忘れる。
同じことを何度も確認する。
道に迷ってしまう。
最初は「疲れだろう」と思っていたそうです。
けれど検査の結果、告げられた診断は——

若年性認知症でした。

そのとき、まだ子どもは幼く、
人生はまさにこれからという年齢でした。

診断を受けた日から、
少しずつ、しかし確実に、できていたことが
できなくなっていました。
仕事を続けることが難しくなり、生活の中心だった
役割を手放さざるを得なくなりました。
自分自身のことが分からなくなっていく。
それは、言葉にできないほどの恐怖だったと
思います。
一番近くでそれを見ていたのは、奥さんでした。
子どもを育てながら、仕事を続けながら、
夫の変化を受け止めなければならない。
「どうしてこんなことに」
何度も、そう思ったと話してくれました。
怒りや悲しみ、どうにもならない現実への葛藤。
けれど時間は止まってくれません。
子どもは成長し、生活は続いていきます。

やがて奥さんは、
少しずつ考え方を変えていったそうです。
「できなくなったこと」を数えるのではなく、
「今できること」を大切にしようと。

その日、笑えたこと。
一緒にご飯を食べられたこと。
子どもが学校の話をしてくれたこと。
当たり前だった日常が、少しずつ「かけがえのない
時間」へと変わっていきました。
ある日、その方がふと、こう言ったそうです。

「この家、いいね」

それは、ずっと暮らしてきた家です。
けれど、その言葉を聞いたとき、
奥さんは涙が止まらなかったと話してくれました。

覚えていなくても、感じることはできる。
家族でいる安心感は、きっとどこかに残っている。
そう思えた瞬間だったのだそうです。
病気は、確かに多くのものを奪います。
仕事も、記憶も、役割も。
それでも、すべてが失われるわけではありません。
家族で過ごした時間。
手を握る温もり。
一緒に笑った記憶。
それらは、形を変えながらも、確かにそこに
残り続けています。

このご家族と関わるなかで、
私は改めて思いました。
希望とは、大きな夢や奇跡のことだけではない。
今日という一日を、家族と共に過ごせること。
笑える瞬間があること。
その一つひとつが、確かな「希望」なのだ。
ぼやあ樹が大切にしている
「希望をカタチに」という想い。
それは、人生のどんな場面にあっても、
その人と家族が大切にしているものを、
守り続けていくこと。
そして、どんな状況の中にもある小さな幸せを、
一緒に見つけていくことなのだと思います。

私たちはこれからも、その人らしい人生に寄り添い
ながら、小さな希望を、確かなカタチにしていきたい
と思っています。



次回もまた、新たな「希望をカタチに」の物語をお届けいたします。